

月報	日本キリスト改革派 横浜中央教会	11月号 2013年11月10日
----	---------------------	---------------------

「祈り」の勧め

M. M

いま、私たちの横浜中央教会は設立25周年を経て次の30周年に向けて大きな事業と課題に取り組もうとしております。中でも会堂増築事業とそのための財政運営、次の時代に備えた教会役員の選挙と信仰の継承は重要課題であると認識しています。これらの課題は教会員が一致しないと主の御心に適うものとはならず、途中で挫折してしまう恐れすらあります。いまほど、教会員が挙って主に折り求めることが大切な時はないでしょう。

「折り」は、「御言葉」「聖礼典」と並び、キリスト者にとって救いのために有効とされる外的手段です。(ウ小教理88問) この3つの手段以外に私たちが主イエスに頼り、聖霊なる神の導きを求める手段はありません。それゆえ、兄弟姉妹・契約の子が葉って御言葉に聴き、洗礼と聖餐式の恵みに与り、共同の折りを捧げる主の目の礼拝を重んじるように勧められているのです。

ところで、御言葉の朗読と説教及び聖礼典の恵みは礼拝以外の場で受けることは限定されますが、「折り」は個人や家庭でいつでも捧げることができます。私たちは「求めなさい。そうすれば与えられる。」(マタイ7・7) との主イエスのお言葉を信じて、何でも願い求めることが許されています。個人の願いや悩みごとの解決であれ、冒頭に掲げたような教会の課題の実現であれ、御心に適うものであれば主は聴きあげてくださるでしょう。一方で、主イエスは「折るときは、隠れたところで折りなさい」とも、「異邦人のようにくどくどと述べてはならない」とも教えています。そして、祈りの手本として「主の祈り」を教えてくださいました。(マタイ6章) 以前にも書きましたが、私は共同祈禱では「主の祈り」を意識し、御名の賛美と感謝(とくに詩編を引用)を捧げ、それから教会と会員の願いごとを折るようにしています。横浜中央教会では立石牧師の勧めもあって「主の祈り」をとともにする機会が多いのではないのでしょうか。

もう一つは個人的な祈りについてですが、教会の中でもっと会員同士で、あるいは、立石牧師や長老・執事と一緒に折る機会が増えると良いと思っています。教会学校、委員会、婦人会、壮年会、若い人などグループごとの祈禱も盛んになることを期待しています。何よりも定めの日待合に多くの兄弟姉妹が集まり、折る機会が増えることを願っています。祈禱会も公の集まりですが、短い折りでも私事の折りであっても共にしましょう。しかし、どのような祈りでも「まず、神の国と神の義を求めなさい」(マタイ6・33) との主イエスのお言葉に適うものであるように心がけたいものです。

ケーキを作って送りたいと何時も思っていた私ですが、全くできていませんでした。なので、初めの一步を試みる事にしました。前日にロールケーキを作りながら、どんな所なのかしら？どんなお話をしたらいいのかしら？お手伝いの足手まといにならないかしら？ロールケーキ食べただけなのかしら？と色々と考えていました。

10月31日早起きして、東京駅から東北新幹線「はやぶさ」8時20分発に乗り込み仙台へ、そこから、東北本線に乗り10時25分に松島に到着。駅には立石牧師と東仙台教会で牧師をしていらっしゃる立石章牧師が迎えに来て下さっていました。仙台駅から松島まで行く電車の車窓から見た風景は、長閑な風景が見え、新しい家が立ち並んでいました。地震の被害がどれだけ酷かったかを考えさせられる瞬間でもありました。

「桜カフェ」のある桜ハウスは、松島から車で20分くらいの野蒜という場所にあります。皆さんもご存知と思いますが、津波の被害が大きく電車の線路も流されてしまった所です。まだ復興していません。東北本線の松島までは、外見からの判断だとかなり復興していると言う印象でしたが、野蒜は全くそう感じません。桜ハウスの目の前は建物が何も無いと言えるほどです。そして、被害はあったけれども泥だしをして住めるようになった家が少しあるイメージです。どれだけ悲しい出来事があったのだろうと、想像しか出来ない私。怖い恐ろしい体験をした野蒜の方々は、その気持ちを抱えながらその地で生活していらっしゃる事を考えると目頭が熱くなりました。今回、その場所に行けるチャンスが与えられて感謝の気持ちでいっぱいです。

少しですが、「桜カフェ」でお手伝いをした時の事を書かせていただきます。こちらのカフェは、週に一度木曜にオープンです。ランチ、ケーキ、コーヒー、紅茶、ハーブティーとジュースを、お客様に提供しています。ランチは、鈴木長老が一人で前日から仕込んで30食ほど作られていて、毎回違うランチを提供しています。とっても美味しく綺麗な盛り付けです。ケーキも三種類ほどを用意しています。コーヒー、紅茶、ハーブティーもこだわりの風味豊かな美味しい物を用意しています。お値段も、ランチ、ケーキ、飲み物のフルコースを注文しても、500円です。考えられないお値段にビックリしました。

営利目的ではなく純粋に皆さんの憩いの場を提供したい気持ちを伺え知れます。私のお邪魔した日は、近所の方や以前は野蒜に住んでいたが今はちょっと離れた場所に住んでいる方などが、50名ほどいらしていました。かなり賑わったのでお手伝いに必死で少ししかお話できませんでしたが、やはり皆さんは野蒜が好き、馴染みのあるご近所さんと暮らしたいと願っているようでした。「暫くは何もなくなってしまった目の前の光景を見るのも嫌だったけど、今は少し違ってきました。」とお話くださったご婦人の言葉がとても心に響きました。本当に、被害がなかったら長閑で穏やかだったのではないかなと感じる場所です。

カフェの運営は、普段は4名で全てをこなしていて、かなり大変なのでは？と感じました。ケーキも、各教会から最初はよく送られて来たそうですが、最近は以前ほど送られてくることも少ないそうで、ボランティアスタッフが、三種類を作ることもあるそうです。お客様は、ほぼフルコースで召し上がるので、ケーキを三種類一つずつ作ればいいのかではなく、9台くらい作らないと足りないと思います。それは本当に大変なことです。皆さんが笑顔になってくれる、楽しみにしているとこの活動が大変でも辞められないと感じます。そして、なによりカフェは、地域の方々にとって安心できる場所であり、ボランティアスタッフと地域の人達が色々話を交わして行くうちに、痛んだ心を修復できる場所になっているのではないのでしょうか。

この活動は、長い時間をかける事が大切だと私は思います。なかなか、お仕事、家庭の事情、育児などがあり現地に行く事は難しいと思います。今居る所からでもできる事はあると思います。少しでも継続してお手伝いしていきたいと私は思います。今回訪問して、色々な気付きがありました。その一つに、高齢の方も召し上がるのでその事を考えてケーキを送りたいと思いました。この気持ちを大切に、何時も心に留めて生活していきたいです。

忘れないで下さい

K. K

3月11日の大震災の被災地に行ってきました。

今まで多くのニュースに触れながら何か自分の中に足りないものを感じていました。現地に行く事など私にはかなわないものと思っていました。ところが東仙台教会が運営するさくらカフェにケーキを送る奉仕をされている、圭子さん増田さん伊藤清音さん達のツアーに便乗して出かける機会が与られました。

さくらカフェには時間になると近隣の方々が親しい家を訪問するような感じで次々やってきました。迎えるスタッフとの間にはやさしい空気が漂っていてとても大事なものを見ている気がしました。あのような間柄になるのにはどれほどの奉仕、熱意、努力が捧げられたのでしょうか。

あれから3年も過ぎていないのに人々の関心はオリンピックへと移ろうとしています。愛する人を失った人達の悲しみはそんなに簡単に癒えません。そういう事に想いを寄せればおのずと自分達のとるべき行動がわかる筈です。

私はそんなに立派な人間ではありませんが、違和感をおぼえます。福島のこといい忘れさせようとしている人達がいるのでしょうか。あのような大災害を経験しても変わることはない国、どうなっているのでしょうか。

そんな中で私達の仲間は心を込めて「愛」の働きをしています。コーヒーカップまでちゃんと温めてから使っています。白いテーブルクロスも掛けられ、被災地だからと手抜きをしていません。みなさんくつろいだひと時を過ごしにこやかに帰って行かれます。子供達からも慕われ、地域に溶け込んでいて羨ましい限りです。

ボランティアが減ってきている現在、以前と変わらずに地域の方々に励まし寄り添う、簡単に出来ることではありません。感謝です。

きっと彼らの行動から「主の愛」を感じている人がいる筈です。

時が来て実りがもたされる事を祈らずにはられません。

帰り道、近くの海に立ち寄りました。

夕暮れの空と海の色が溶け合い幻想的な景色でした。

あんなにきれいな海を見た事はありません。

その海があの日、悲しみの海となったのです。

主はすべてを喪失した者の祈りを顧み
その祈りを侮られませんでした。

詩編 102 : 18

サクラカフェ訪問記

I. K

東松島行きはとても有意義なものとなりました。カフェにいらっしゃる方や帰る途中で会った方が東仙台教会のスタッフの方を信頼していることや地元の方々が必要とされている活動をされているのもよくわかりました。特に「立石さんのお母さんがいらしている」と聞いた時の、地元の方々の反応がそうでした。いつもお世話になっている立石さんのお母さんがいらしているなら、ぜひご挨拶しなければ・・・という思いが皆さんの様子からありありわかりました。

彰先生他3人のスタッフで「サクラカフェ」「にじいろ楽習会」「仮設住宅での食事会」「一泊旅行の企画」などいろいろな活動をされていて本当に素晴らしいと思いましたが、スタッフの方々にお疲れはないのかちょっと心配になりました。送られてくるケーキも減少気味というお話も気がかりでした。

去年のクリスマスプレゼントを返ったことが縁となって、時々手紙のやり取りをしているHさんに会えたこともよかったです。思いがけず、自宅にも招いていただいたのにはびっくりしましたが、うれしかったです。平地さん宅にもサクラカフェの案内が貼ってあって、毎週木曜日の開店を楽しみにされているのだと思いました。平地さんの家の1階も津波の被害に遭い、1階を改修して住んでいらっしゃいます。カフェには以前平地さんのご近所だった方もいらしていましたが、その方々は仮設住宅暮らしだそうです。カフェに来ると、以前のご近所さんに会えておしゃべりできるのが楽しいとのことでした。

東松島では内陸部の土地を切り崩す工事をしていました。そこに住宅を建設するそうです。津波で流されたJRの線路も工事中でした。以前の生活に戻るにはまだまだ時間がかかりそうです。彰先生の活動もまだまだ必要とされていると思われます。私ができることは「ケーキを焼いて返ること」しかないなので、それをすることでスタッフの方々のお手伝いができればいいなあと思っています。ケーキも今までは「送りやすいケーキ」を返っていましたが、彰先生がお話していたようにカフェにいらっしゃる方は「ケーキ屋さんで売っているようなケーキ」を望んでいることもわかりました。ロールケーキが売り切れになったこともこれを表していると思います。またいつかサクラカフェに行ってみたいです。今度は一泊で行って、朝から生クリームのデコレーションをして毎のショートケーキを皆さんに食べてもらえたらと思っています。